

# せん妄の看護師教育に関する文献検討

山陽学園大学  
看護学部看護学科  
立山満月

## I. はじめに

せん妄とは一時的な意識障害と様々な精神症状を伴う病態であり、早期に発見し治療につなげることが重要である。しかし、症状が多様であることやせん妄の評価は多岐にわたることからスケールの使用が困難であり、看護師のせん妄評価に個人差があることや、せん妄の理解が難しく、せん妄のケアが困難になっている。これらから看護師はせん妄患者への対応は難しいと感じている。本研究ではせん妄を理解するためにどのような教育がされているのか明らかにすることで、せん妄の看護の充実をはかるための示唆を得ることを目的とする。

## II. 研究方法

1. 研究期間：令和2年4月～11月

2. 研究対象

医学中央雑誌 Web にて「せん妄」「看護教育」をキーワードとし、年代を絞らずに

原著論文を検索。2020年7月26日の時点で64件の文献がヒットした。このうち、2001年以降のものと「看護学生」を対象としているもの、そのうち文献内容を確認し、14件の文献を除いた50件を対象とした。

## 3. 調査・分析方法

研究対象とする50件をタイトル、抄録で分類し、抄録内容を調査方法と結果に分け Text Mining Studio 6.4 (株式会社 NTT データ数理システム) を用いて分析した。

## 4. 倫理的配慮

対象文献の内容抽出においては、文献の論旨や文脈の意味を損なわないように抽出することに努めた。

## III. 結果

50文献のうち、2010年から2014年は17件と急増し、2015年から2019年では26件であった(図1)。

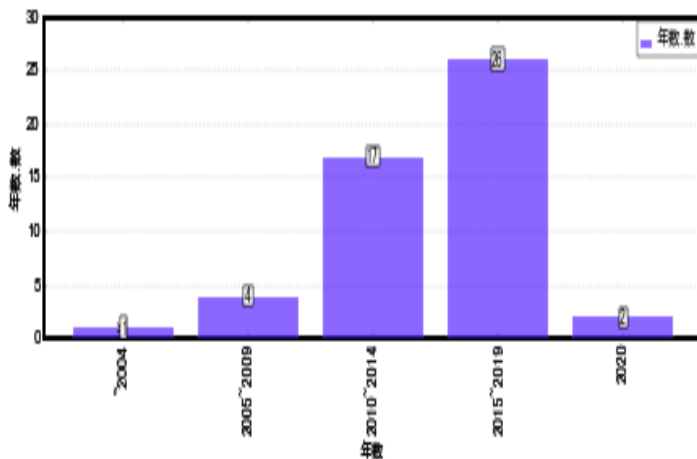


図1 発表年の年次推移

5年ごとの単語頻度解析では、タイトルは「急性期」「ICU」が2015年から2019年の間で多くなっていた(図2)。抄録の

調査方法では2010年から「勉強会」や「認知症」「評価」などが頻出していた(図3)。

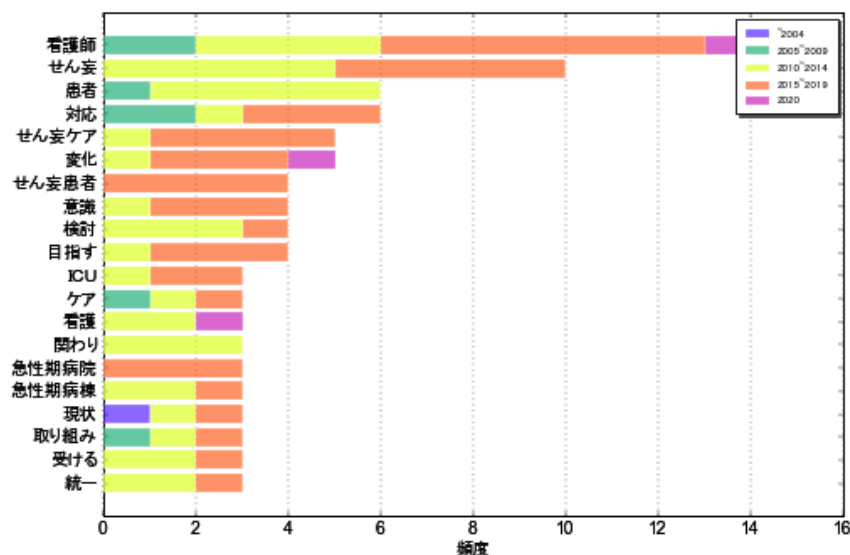


図2 文献タイトルの単語頻度解析

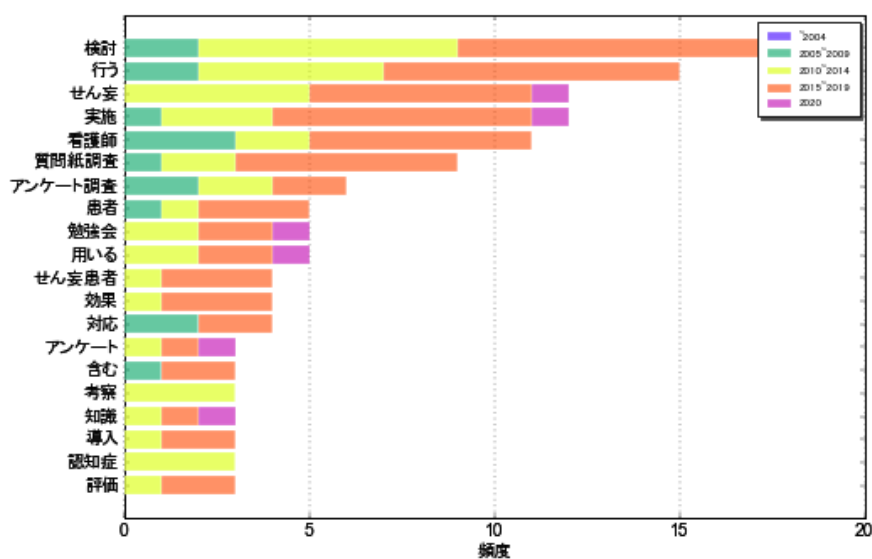


図3 抄録(調査方法)の単語頻度解析

ことばネットワークでは、タイトルは5つ 抄録の結果は3つ (図6) に分類された。  
 (図4)、抄録の調査方法は3つ (図5)、

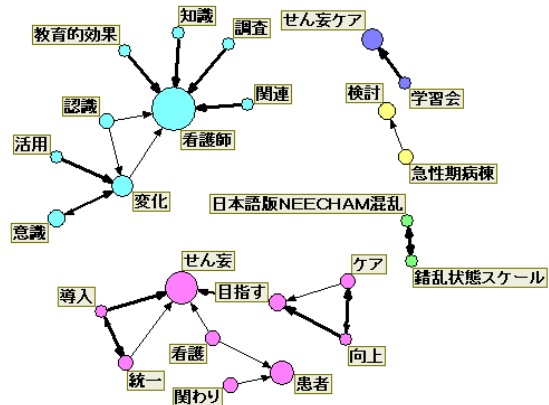


図4 文献タイトルのことばネットワーク

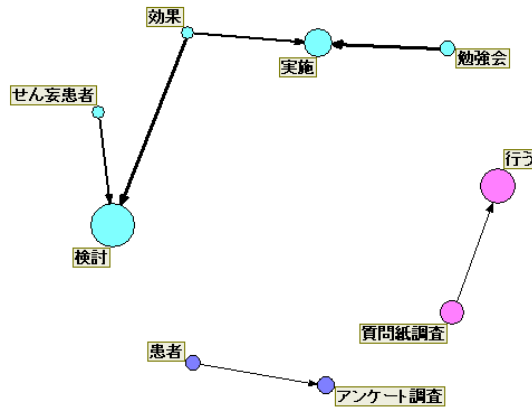
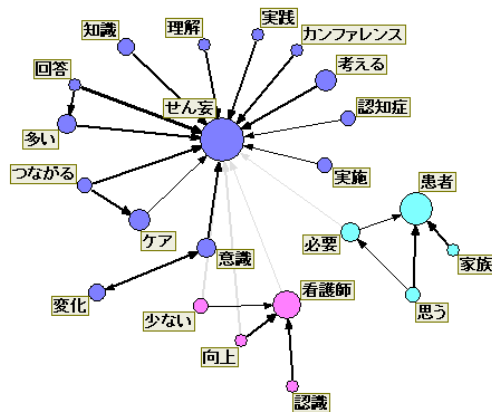


図5 抄録 (調査方法) のことばネットワーク



## 図6 抄録(結果)のこぼネットワーク

### IV. 考察

せん妄とは高齢者に発症することが多く、近年の高齢化に伴いせん妄の看護師教育に関する研究が増えていると考えられる。さらに、急性期病院や急性期病棟を対象とした研究が増加している。せん妄を発症すると身体機能の低下による患者のQOLの低下だけでなく、入院期間延長による医療経済の負担をもたらすことがある。2008年以降の医療費適正化や令和2年診療報酬改定では急性期入院医療を対象にせん妄ハイリスク加算が創設されるなど、急性期医療でのせん妄発症が重要視されていることが考えられる。

文献タイトルと研究結果から、せん妄の看護師教育には大きく2点の事がいえる。まず1つ目は、勉強会やカンファレンスによるせん妄の認識や意識の変化とそれに関連したせん妄に対する知識やケアである。せん妄の発症には身体的側面や環境の変化など様々な要因で発症することやせん妄の診断・評価をするスケールの使用に技術が必要である。つまり、評価者である看護師のせん妄に関する知識を深め、せん妄の評価を統一化させることでせん妄の予防や早期介入のケアが可能になると考えられる。2つ目は患者と家族の看護についてであった。せん妄発症時は患者だけでなく患者家族も混乱してしまう場合がある。そのため、入院時や手術前に、患者家族にもせん妄やせん妄発症時の対応についての説明を行うことで家族にせん妄についての十分な理解ができ、せん妄の予防や早期発見・早期介入につなげることができると考えられ

る。

### V. 結論

1. せん妄の看護師教育は、近年急性期を中心として増えている。
2. せん妄の看護師教育は、勉強会やカンファレンスによるせん妄の認識や意識の変化とそれによるせん妄に関する知識やケアの向上を目指している。
3. 患者だけでなく家族を含めたせん妄看護についても看護師へのせん妄教育には必要である。

### VI. 謝辞

本研究で分析を行うにあたり「Text Mining Studio 6.4」を使用させていただきました株式会社 NTT データ数理システム様に感謝申し上げます。また、本研究にご指導いただきました山陽学園大学 林由佳准教授に感謝申し上げます。